

# 掛川市・袋井市 新病院建設だより



April 2010 Vol.4

## 新病院建設準備順調に進む

**\*新病院長に名倉英一氏が内定\***



(新病院のイメージ)

この3月に、新病院の医療機能や建物内の大まかな構成を決める基本計画がまとまり、当初の予定どおり、新病院の建設準備は順調に進んでいます。

現在は、院内の部門ごとに、さらに詳細な運営計画を作ると同時に、建物の構造や病室、手術室などの詳細な配置、構成を決める基本設計を取りまとめています。

本年7月には、建設工事を行うための詳細図面を作る実施設計に着手し、平成25年春の開院を目指し、建設を進めていきます。

また、新病院の院長予定者がこの4月から掛川市立総合病院長に就任した名倉英一氏に内定しました。(詳細は、2ページをご覧ください。)

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
全体工程	計画部門	基本計画	運営システム計画			
	建設部門		基本設計	実施設計	建築工事	★開院
			造成工事		開院準備	
		(掛川市土地開発公社で施工)				

・計画部門では、運営マニュアルや情報システム、医療機器などについて、各年度ごとに詳細な計画を立てて開院を目指します。

# 新病院長が内定しました

新病院長に内定した名倉英一氏に今後の抱負などについて伺いました。

名倉氏には、現在進められている新病院の基本設計において、どのような構成・配置をすべきか最終判断をしていただくと共に、病院の完成に向けて陣頭指揮を執っていただく予定です。



掛川市・袋井市新病院長(予定)  
(現掛川市立総合病院長)

名倉 英一氏

## ご挨拶

4月1日から、ご縁があつて、掛川市立総合病院長に着任しました名倉英一です。病院長としての職務とともに、掛川市・袋井市新病院建設の準備に当たることになりました。

私は名古屋の生まれで、専門は血液学です。経歴は下に記載のとおりです。

常滑市民病院では自治体病院による地域医療はどうあるべきかを考えさせられ、また、医師不足の現実とそれによる医療サービスの低下を経験しました。市民病院は市

民に信頼され、市民に良質な医療を提供することが最も大事ですが、課題も多いのが現状です。また、残念ながら、財政難のため平成28年度まで延期となりましたが、常滑の新病院の移転新築計画にも関わっていました。

今回、掛川市と袋井市は二つの病院を新たに統合してこの地域医療の難局に対処しようとしています。病院の統合は、総論の賛意は得られても、それぞれの利害が一致せず、実際には実現は困難ですが、市立病院同士としては、わが国ではじめての試みが、

現実になろうとしています。

これまでの経緯をみますと、統合計画を実現するために払った両市の関係者の努力、それを支える市民の熱意に頭が下がります。名古屋大学を始め、浜松医科大学、名古屋市立大学、岐阜大学の関係医療機関は今回のプロジェクトに全面的な協力を惜しまない決意です。掛川・袋井両市の市民や関係の方々との協議を重ね、機能性・安全性・環境性・経済性・快適性などで期待に沿える新病院ができるよう努力したいと思います。



## ◆経歴◆

昭和43年3月 愛知県立旭丘高校卒  
昭和50年3月 名古屋大学医学部卒  
昭和50年4月 大垣市民病院  
昭和51年4月 安城更生病院  
昭和52年11月 財団法人癌研究会  
癌化学療法センター

昭和55年7月 愛知県職員病院  
昭和57年1月 佐賀医科大学内科学文部  
教官助手  
昭和58年6月 国立療養所中部病院  
平成16年3月 常滑市民病院副院長  
平成22年4月 掛川市立総合病院長

# 基本計画がまとまりました

新病院の具体的な医療機能や建物の配置、構成などを定めた基本計画がまとまりました。

基本計画とは、新病院の重要課題をはじめ、外来や病棟などの部門ごとの計画、建物の配置や階層ごとの構成などを定めた建設計画などで構成されています。

今後は、この基本計画を基にして、院内の業務マニュアルを作ったり、どのような医療機器や医療情報システムを導入するか決めます。

また、建物の設計をするときも、この基本計画を基にして進められます。



## 新病院の概要

項目	内容
所在地	掛川市下俣・長谷地内
敷地面積	約137,000㎡
病床数	500床程度 (うち、ICU、CCU、救急病床22床)
外来患者数(想定)	1,200人/日
標榜診療科目	32科 内科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、血管外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科、人工透析外科、脳神経外科、整形外科、リウマチ科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線診断科、腫瘍放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科口腔外科、精神神経科、病理診断科
機能のセンター化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳・心臓血管内治療センター</li> <li>・血液浄化センター(透析)</li> <li>・睡眠医療センター</li> <li>・脊椎・脊髄センター</li> <li>・PETセンター</li> <li>・人間ドック・健診センター</li> </ul>

## 新病院の重要課題(抜粋)

### 1 質の高い医療の提供

循環器系疾患、悪性新生物や糖尿病への医療提供を充実します。

この地域に不足する小児・周産期医療を充実させる機能を整備します。

### ア 急性期入院医療の充実

手術室を12室、ICU(集中治療室)とCCU(心疾患集中治療室)を合わせて10床設置します。外来においては、地域の医療機関との連携を強化し、紹介患者を積極的に確保します。

手厚い看護を必要とする急性期の患者に対応するため、7対1看護配置<sup>※1</sup>とします。

※1 7対1看護配置：入院患者7人に対して1人の看護師を配置する体制

### イ 循環器系疾患、悪性新生物及び糖尿病に対する機能強化

#### (ア) 循環器系疾患に対する機能強化

「脳・心臓血管内治療センター」を設置し、脳や心臓のカテーテル治療や開頭術などの脳外科治療を組み合わせた治療を実施します。

心筋梗塞などの心疾患の救急患者を受け入れるため、CCUを整備します。

### (イ) 悪性新生物に対する機能強化

- ・がん検診を積極的に実施するとともに、PET※2などの高度放射線機器による診断を行います。
- ・手術などの外科的治療を行うほか、外来化学療法や放射線治療装置による治療を行い、がん医療の充実を図ります。
- ・がんの末期患者に対する緩和ケア医療※3を行います。

### (ウ) 糖尿病に対する機能強化

- ・中東遠地域の診療拠点となるよう、地域連携による紹介制度を確立します。
- ・糖尿病専門医の増員を進めるとともに、合併症への対応など十分な治療や教育が実施できるようにします。

※2 PET：がん細胞の性質を利用して、がんを発見する装置。  
※3 緩和ケア医療：終末期の患者の身体的、精神的苦痛を和らげるための治療やケア。

### ウ 小児・周産期医療体制の充実

#### (ア) 小児医療体制の充実

- ・小児患者の診断、検査、治療の機能を充実するとともに、小児の入院医療に充分対応できる体制をとります。
- ・より高度で専門的な医療が必要な小児患者については、静岡県立こども病院との連携により対応します。
- ・地域に不足する小児救急医療（24時間365日の2次救急※4対応）を充実します。

#### (イ) 周産期医療体制の充実

- ・帝王切開まで対応する体制を整備します。
- ・ハイリスク妊産婦や重症新生児に対しては、NICU（新生児集中治療室）を持つ地域周産期

母子医療センターとの連携によって対応します。

※4 2次救急：入院や手術を必要とする重篤な患者に対する救急医療。

## 2 救急医療体制の充実

循環器系疾患（脳血管疾患・心疾患）をはじめとする2次救急医療を行います。

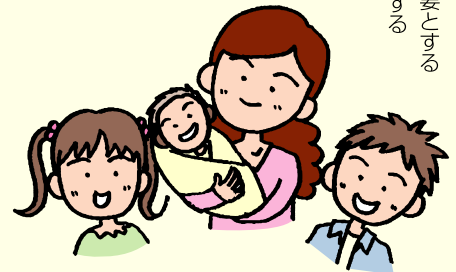
1次救急や3次救急については、地域の医療機関との役割分担や連携を図ることにより、地域の救急医療体制の強化に努めます。

#### ア 2次救急医療を主体とした救急医療体制の整備

- ・救急専用の診察室や病室、処置室などを整備します。
- ・緊急に手術が必要な救急患者に対応するために、ICUを設置するほか、心筋梗塞など急性期の心疾患の救急患者にも対応するため、CCUを整備します。

#### イ 住民への啓発活動の実施

- ・住民の皆様には、安易な受診を控えていただき、小児科相談窓口の活用への理解を深めていただいたりするよう啓発活動を行います。



## 3 地域医療連携の強化

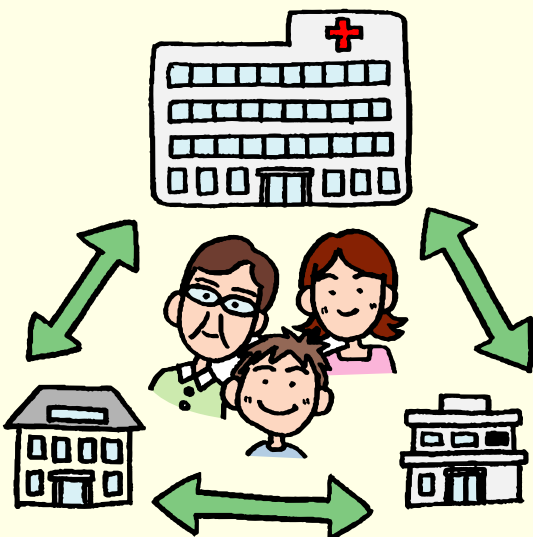
地域の医療機関との連携を強化し、地域医療支援病院を目指します。

外来を中心とする1次医療については地域の診療所と連携して対応します。

より高度で専門的な3次医療については、西部保健医療圏又は県内の高機能病院と連携して対応していきます。

#### ア 地域医療支援病院としての役割

- ・地域の診療所からの紹介患者や救急患者を積極的に受け入れ、症状の落ち着いた患者については、地域の診療所へ逆紹介を行います。
- ・地域医療支援病院として、紹介患者の診療を行ったり、機器を共同で利用したりします。
- ・また、研修などを通じて地域の診療所を支援し、地域医療体制の中核を担います。



## イ 地域医療連携部門の充実

- ・医師や看護師による地域の診療所への訪問活動を積極的に行います。

## ウ 中東遠保健医療圏<sup>※5</sup>の基幹病院としての役割

- ・中東遠地域の市町や自治体病院で設置する「地域医療再生支援センター」を新病院内に置き、中東遠保健医療圏内の連携事業など地域医療の向上のための事業に積極的に関わっていきます。

※5 中東遠保健医療圏：静岡県が病床の整備を図るために設定した地域的単位。掛川市、袋井市、磐田市、森町、菊川市、御前崎市の5市1町で構成されている。

## 4 災害医療の提供

- ・災害拠点病院として、24時間365日いつでも災害医療に対応できる緊急体制を確保します。

## ア 建物の免震化

- ・東海地震などの災害に対応するため、建物を免震構造<sup>※6</sup>とします。

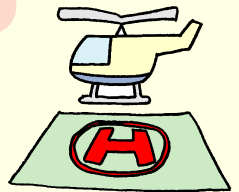
※6 免震構造：基礎に設置した装置の動きで地盤の揺れを受け流す構造。

## イ 災害時の体制整備

- ・24時間いつでも災害に対する緊急対応ができ、被災地域内の傷病者の受け入れができる体制を整備します。
- ・消防機関（緊急消防援助隊）と連携した医療救護班の派遣体制を整備します。

## ウ ヘリポートの設置

- ・広域的な患者搬送に対応するため、ヘリポートを設置します。



## エ 災害時の資機材、備蓄の確保

- ・災害時における患者の多数発生に対応できる診療スペースを確保するとともに、診療に必要な医療ガス設備などを整備します。

- ・簡易ベッド、トリアージタッグ<sup>※7</sup>などの災害時医療用資機材の備蓄倉庫を整備します。

※7 トリアージタッグ：傷病者を重症度と緊急性によって分別（トリアージ）するための識別表。

## オ 新型インフルエンザ等の感染症への対応

- ・救急部門に専用の診察室や病室を設置します。



イメージ写真

## 5 職員の教育環境・勤務環境の充実

- ・地域医療機関の医療従事者、学生、研修医などに対する教育・研修に取り組み、地域の医療水準の向上を図ります。

## ア 人材育成のための研究・研修環境の充実

- ・教育・研修計画を作成したり関係機関との連携や調整を行ったりする教育・研修の総合調整窓口としての部署を設置します。
- ・全ての職種における研修システムを確立し、専門資格を取得できる環境をつくります。



## イ 専門医資格取得のための研究・研修環境の充実

- ・各診療科や分野において高度な知識や技量、経験を持つ学会認定専門医の資格を取得するための経済的なサポートや研究・研修の機会を提供します。

## ウ 研修医などの教育・指導の充実

- ・研修医などにとって魅力ある病院にするため、指導医の登録や育成が進むよう支援を行います。

## エ 勤務環境の充実

- ・医療従事者にとって働きやすい職場となるよう、24時間保育や病児保育をする院内保育所を設置したり、育児短時間勤務制度を実施したりします。
- ・出産や育児により現場を離れた女性の医療従事

- ・者に対し、職場復帰できるプログラムや研修を行い、支援していきます。
- ・職員の心理的なサポートを行う体制を整備します。

### 才過重労働の軽減

- ・適切な人員配置を行うとともに、情報システムの活用や運用マンニユアルの整備などにより、過重労働を軽減し、働きやすい環境を整備します。



イメージ写真

## 6 健全な経営の実現

新病院において良質な医療を継続的かつ安定的に提供するために、初期投資額の適正化や限られた医療資源の有効活用による健全経営を実現します。

### ア 初期投資額の適正化

- ・病院の設えを必要最小限にすることで、建築費の適正化を図ります。
- ・両病院から移設できる医療機器などについては、移設し初期投資を抑えます。

### イ 経営企画部署の充実

- ・病院の経営データの調査、分析や経営改善策の立案などを行う専門部署を設置し、民間的な経営手法を取り入れた自立的経営を図ります。

### ウ 経営形態（地方公営企業法全部適用）を活かした経営

- ・新病院の経営形態として、地方公営企業法を全部適用することにより、企業としての独立性を高め、持続可能な健全経営を実現します。

### エ 一般会計からの繰り入れ基準の明確化

- ・一般会計からの繰り入れ基準は、総務省における繰り入れ基準を基本とします。

### オ 効率的な運営

- ・DPC<sup>※8</sup>への対応やクリニカルパス<sup>※9</sup>の整備により、診療・治療の標準化を図り適切な入院退院を実現します。
- ・電子カルテ、オーダーリングシステム<sup>※10</sup>などの導入により効率的な病院運営を実現します。

※8 DPCC：急性期入院医療に対する診療報酬を包括払いとする制度。

※9 クリニカルパス：入院からの食事、処置、治療、退院後の説明などが記されたスケジュール表。

※10 オーダーリングシステム：検査内容や処方箋をコンピュータに入力することで、それ以降の診療から医事会計までを電子化するシステム。



イメージ写真

今後、基本設計を進めるにあたり、皆様からのご意見を募集しています。電話、郵便、メールなど何でも結構ですので、たくさんのご意見をお待ちしています。なお、新病院建設基本計画書については、組合ホームページをご覧ください。  
<http://www.shinbyoinkyogi.jp>

## 1 基本方針

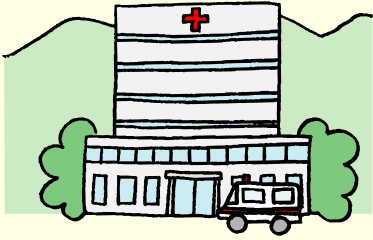
- ・周辺の環境に配慮するとともに、将来の建て替えを踏まえた配置を計画します。
- ・地震などの災害が起きても医療機能を維持できるよう免震構造とし、水や電気などのライフラインを確保します。
- ・自然換気や自然採光を取り入れ、省エネルギーや地球環境の保全に配慮します。
- ・建設費や経費の低減を図れる計画とします。
- ・患者や医療従事者にとって、分かりやすく機能性や利便性に優れた部門の構成と各部屋の配置を行います。

## 2 建物等の配置

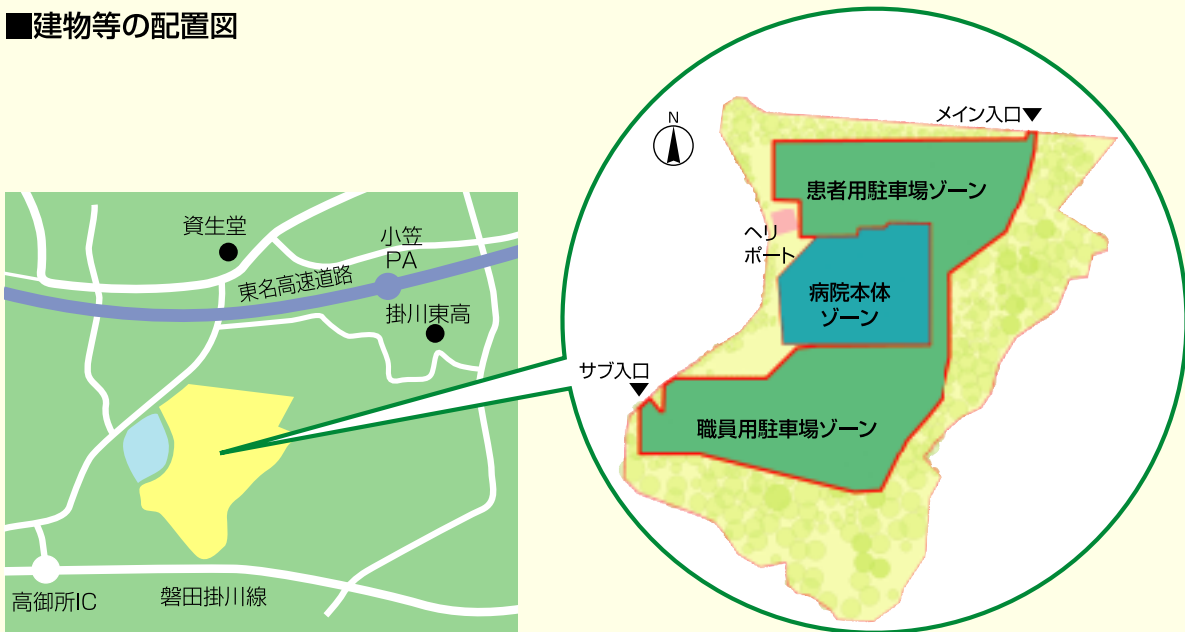
主に病院利用者や救急車が利用するメインの入口は北側に、職員や業者などが主に利用するサブの入口は南西側に配置します。

病院の建物は、敷地のほぼ中央に配置し、その北側が患者用駐車場、南側が職員用駐車場になります。

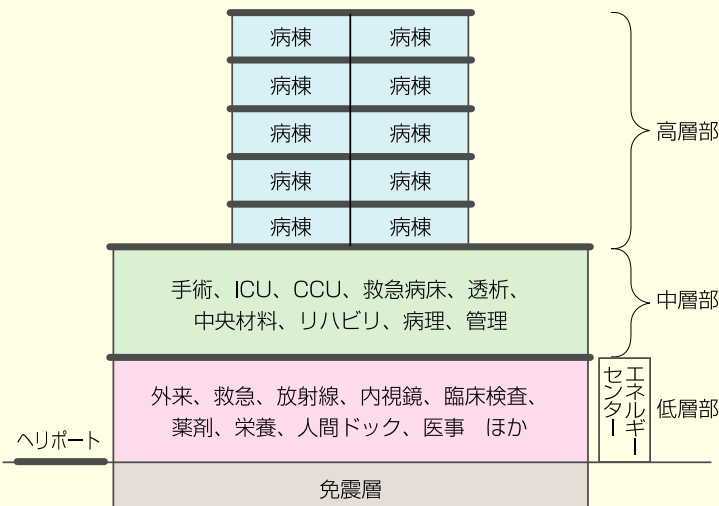
これらの配置は、地質調査の結果や、山や池などの周辺環境や起伏の多い地形を生かしたものと なっています。



■建物等の配置図



■建物の階層構成図



## 3 建物の構成

建物の構成は、低層部、中層部、高層部に分類されます。

低層部は、外来や検査、人間ドックなど住民の皆様にとって身近な部門を配置します。

中層部は、主に手術を中心に、関係する部門を配置します。

高層部は、1フロアにつき病棟を配置します。

また、建物に隣接した場所にエネルギーセンターやヘリポートを設置します。

# 医療機能懇話会

医療機能懇話会は、両市の医師会、歯科医師会、薬剤師会の代表者や関係大学などの学識者ら14名で構成され、新病院の重要な医療機能や地域医療連携のあり方、経営面など基本計画の内容について、ご指導やご助言をいただくものです。

## 開催状況

### 第1回

開催日 平成21年8月27日(木)

主な内容 新病院の基本的な機能や人材育成、施設整備について

### 第2回

開催日 平成21年12月25日(金)

主な内容 手術室等の数や運用について  
地域医療連携について  
職員の教育、勤務環境について

### 第3回

開催日 平成22年2月19日(金)

主な内容 建設計画や  
財政計画について  
基本計画(素案)の  
最終確認



## 懇話会を終えて

平成21年度の医療機能懇話会を終えて、佐古会長から感想をいただきました。



医療機能懇話会会長  
佐古伊康氏  
(しずおか健康長寿財団  
理事長)

第三回医療機能懇話会を終えて、これから設計業務に取りかかります。皆様方の要望を出来るだけ叶えながら、どのような病院に仕上がるかに胸を弾ませていきます。

建物と医療機器は病院機能の重要な要素です。現在のところ、関係諸氏のご尽力により、両市民に安心・安全で良質の高次医療を提供できる病院ができるものと信じています。

しかし、最近の地域医療崩壊事例の検証では、医療従事者にとって働きがいのある職場環境が、医療の質を左右すると指摘されています。

今後、魅力ある職場環境と良質の医療職々の確保に向けて、両市の市長、議会、市民、医療関係諸団体の方々には、更なるご理解とご支援のほど宜しくお願い致します。



# 組合議会

平成22年第1回組合議会が開催されましたので、その内容をお知らせします。

## 開催状況

### 開催日

平成22年2月18日(木)

### 場所

袋井市役所 第1委員会室

## 議決内容

### 1 平成21年度組合会計補正予算(第2号)

補正額 △5,000千円

(基本計画策定委託費の減)

### 2 職員定数条例の改正

(事務局職員定数9人から11人へ2人増)

### 3 平成22年度組合会計予算

予算総額 467,515千円

主なものは次のとおりです。

### ●歳入

市負担金 227,514千円

※本年度の負担額のうち、

掛川市137,128千円

袋井市90,386千円

組合債 240,000千円

### ●歳出

運営システム計画策定委託費 28,000千円

基本設計業務委託費

79,800千円

実施設計業務委託費

250,000千円

平成22年4月1日発行



## 掛川市・袋井市新病院建設事務組合

〒436-0043 掛川市大池2798番地の11(掛川市勤労者福祉会館内)

TEL.0537-61-2700 FAX.0537-61-2701

ホームページアドレス <http://www.shinbyoinkyogi.jp>

Eメールアドレス [byoken@city.kakegawa.shizuoka.jp](mailto:byoken@city.kakegawa.shizuoka.jp)

この広報紙は資源リサイクル推進のため、再生紙を利用しています。